民研部会から

進路指導部会

子どもたちの生きていく道すじをどう保障するか

岩井　紀子

進路指導部会の二〇一〇年度の活動目標は以下の三点でした。

①「高校改革」「特色ある学校づくり」のもとに、高校がどのようにつくり変えられたか。その実態を知る。

②高校の入試問題を検討する。

③教育条件整備部会とも連携し、各行政区ごとの奨学金制度の実情を調べる。

特に印象に残った部会を紹介します。

◆「都立入試で求められている学力」

私立高校一年生のNさんに、自身が昨年度経験した受験勉強・入試についてレポートをしてもらいました。

国語の入試問題を中心として、都立一般問題、自校作成問題、私立M高校の問題を比較しながら話してくれました。そこから見えてきたことは、

・都立入試での国語は、文章の粗筋を把握する力の「ある、なし」問題である。

・都立一般入試の五〇分のなかでは「国語の公式」（テクニック）を使わないと、文章を完全に読み取ることはできない。

・都立一般入試では、文章の筆者の言いたいことを自分なりに理解し、自分のなかの経験を重ねてみたうえで自分はどう考えるのかという作業（文章を読み取る）を受験生に求めていない…。

ということです。

都立入試での国語は、読解力や語彙力が重視されているようで「考える力」を伸ばそうとする出題はほとんどありません。「考える力」は自己主張や主体性につながっていくものだと考えられますが、入試がそれを求めていないとすれば教科書も授業もその流れにのせられていないか深く検討する必要があります。

◆「高校教育の無償化」は実現しても…

東京都高校問題連絡協議会のSさんに今年度の推薦入試、一次入試の状況について話していただきました。

推薦入試の平均倍率は二・九一倍。一次入試は一・四三倍。参加者の声です。

「一日目・二日目の倍率、応募者数が募集人員を下回った学校名などこういう資料を都教委は何のために出すのか」「二・九一倍なんて推薦とはいえない」「『高校の無償化』が実現しても『学力』・経済格差は縮まらない。底辺の子がきり落とされる現実は変わらない」

「昨年度は定員に満たないのに受験で振り落とす通信制高校の現実があった。希望する子どもの高校教育の無償化は保障されていない」…。

部会では政策的につくられた「教育の貧困」、またそれを裏打ちする「経済的貧困」が子どもたちをどのように直撃しているかを明らかにし、子どもたちの生きていく道すじをどう保障するかを考えていきたいと思います。

（西東京・田無一中）